



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
10月2日
発行

第56回

「米大統領選と株式市場」

～バイデン勝利の株式市場は一旦下落後上昇へ～

初めに

米大統領選まで約1か月を残すのみとなりました。激戦が続いていますが、当レポートは引き続き、トランプ氏の再選はなく新大統領はバイデン氏との見方です。今回は少し気が早いかもしれませんが、バイデン氏勝利の場合の、株式市場の反応について考えてみます。バイデン氏勝利の場合の株式市場の反応は一旦下落するも、その後は上昇に転じると見ていますが、そう考える理由をお話します。

トランプショックで株価は下落

トランプ氏は投資家の間で大変人気があります。就任以来米国株は上昇を続け、主な政策は減税と規制緩和。困った時はFRBに圧力をかけて金融緩和とあれば、人気があるのもうなずけます。トランプ氏の再選を願っている投資家は多いでしょう。そのトランプ氏が落選となれば、株式市場にとって大きな悪材料になりかねません。これがバイデン氏勝利の場合株価は下落すると考える理由です。

投資家のトランプ氏評価は的外れ

しかしこのトランプ氏の評価について、自分は全く的外れの評価であり過大評価と考えています。ここからはこの点について述べます。トランプ氏の任期中米国株は上昇しましたが、この上昇を牽引したのはGAFANAなどテクノロジー企業で、トランプ氏が重視する自動車など伝統的な製造業は冴えません。これでは、株高をトランプ氏の手柄とは言えないでしょう。このように考えて投資家のトランプ氏の評価は過大なものであり、彼は運が良かったと見ています。

下落から上昇へ

先程述べたようにバイデン氏勝利の場合、株式市場は一旦下落するものの、その後上昇すると見ています。そう考える理由は、以下のようなものです。トランプ氏落選直後は投資家は混乱し、株価は下落します。しかし落ち着きを取り戻すにつれて、株価は必ずしもトランプ氏のおかげで上昇していた訳ではないこと、またトランプ氏の政策には中国との貿易摩擦の様に株価に悪材料となるものも含まれていたことを思い出すでしょう。

バイデン増税は景気にマイナスではない

株式市場ではバイデン氏が企業や富裕層向けの増税を公約していることが警戒されていますがこれが必ずしも米景気にマイナスとは言えないとの指摘もあります。例えばみずほ総合研究所の安井明彦調査部長は、増税案の規模が今後10年間で4-5兆ドルなのに対してインフラ投資や製造業振興策などのための歳出増は10年間で5兆ドル以上となっており財政全体では景気に逆風とは限らないと述べています。(週刊エコノミスト9月29日号) こうしたことが理解されれば増税への懸念も薄らぐと思います。これも株価が上昇すると予想する理由です。

追記

大統領選挙については、接戦のため最終的な結果の確認に時間がかかるという見方がありますが、当レポートにおいては、バイデン氏が大差で勝利すると考えており、勝敗の確認に時間がかかることはないと予想しています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。